

I 大学薬学部の現況及び特徴

1 現況

(1) 大学薬学部・薬学科名

武蔵野大学薬学部・薬学科

(2) 所在地

〒202-8585 東京都西東京市新町 1-1-20

(3) 学生数、教員及び職員数

表 a 薬学部及び大学院の学生数 (平成21年5月1日現在)

(単位:名)

学部	学科	入学定員	在籍学生数	備考
薬学部	薬学科	145	595	平成16年度開設

大学院研究科	専攻課程	入学定員	在籍学生数	備考
薬科学研究科	薬科学 博士後期	5	7	平成21年度開設

表 b 薬学部及び大学院の教員組織 (平成21年5月1日現在)

(単位:名)

学部・学科、 研究科・専攻		専任教員数					助手	設置基準 上必要専 任教員数	専任教員 1人当りの 在籍学生 数 (表a/表b)	備考
		教授	准教授	講師	助教	合計				
薬学部	薬学科	18	4	16	12	50	4	31	11.9	※1 薬科学研究科の専任教員と学部の専任教員は兼務
大学院 薬科学研究科	薬科学 専攻 ※1	(16)				(16)		(14)		
合計		18	4	16	12	50	4	31	11.9	

表 c 全学及び薬学部職員数 (平成21年5月1日現在)

(単位:名)

	全学	薬学部
専任職員	80	4
常勤職員	25	0
非常勤職員	13	0
派遣職員	64	9
合計	182	13

2 特 徴

本学は、国際的な仏教学者、仏教思想家である高楠順次郎博士の「仏教主義により、未来の母性たるべき女子の智能を啓き、以てその徳を涵養する」という建学の精神に基づき、昭和 40 年度に武蔵野女子大学を設立し、文学部を設置した。平成 10 年度に現代社会学部を開設し、平成 11 年度には人間関係学部を設置した。更に、平成 14 年度に通信教育部を開設し、平成 20 年度に現代社会学部現代社会学科を政治経済学部政治経済学科に名称変更、平成 21 年度には人間関係学部環境学科を環境学部環境学科に改組し、高校生の資格志向・高学歴志向、生涯学習の気運の高まり等、社会のニーズをいち早く捉えて、改革を行ってきた。

更に、平成 15 年 4 月には、男女共同参画社会の実現に向けて、校名を武蔵野女子大学から武蔵野大学に変更している。

このように、本学は積極的な学部学科設置や改組を主とした大学改革を実施してきたが、平成 16 年度に武蔵野女子学院創立 80 周年を迎えるにあたり、新たに薬学部を、平成 18 年度には看護学部を開設した。本学にとって薬学部と看護学部の設置構想は、武蔵野女子学院設立間もない大正 15 年に発表した「武蔵野女子大学学則」に学部設置構想として文学部と理学部をあげていることにまで遡る(資料 1)。理学部のカリキュラムには遺伝学や植物学、動物学等が組み込まれており、特に薬学を意識したものとなっている。この計画の中には、病院の設置も含まれており、医学薬学の両面から理学にアプローチしようという意向も見えるものであった。

また、本学は、仏教主義を建学の精神に据えた大学であるが、仏教と医療および仏教と薬物との関わりを明治時代以前に遡ってみると、極めて深いものがある。

古代、百濟より良医・徳来が渡来したことに端を発し、律令制において国営の医療制度が整備され、典薬寮や内薬司等が置かれた。特に典薬寮は、医療・医育等に関する中央衛生行政の最高機関であり、諸庁で使う薬物はすべてここから配給されたのである。

わが国における薬物の導入は遣隋・遣唐使によることが大きく、そのほとんどが僧侶であった。一方、渡来僧による医薬の発展もめざましく、その媒介となったのが薬師如来といわれて

いる。唐の僧侶であった鑑真は、わが国へ戒律を伝えるために12年の歳月をかけて来日し、医薬、特に本草の学に精通していたといわれている。また、正倉院には献物帳が残されていて、輸入品としての薬物60種類が献納されている。

鎌倉時代の禅僧栄西は、宋から茶種を持ち帰り、上陸地に植えて茶園とし、これは養生の仙薬として貴重なものであった。

このように仏教と医薬の伝来、浸透とは密接に関連しているにも拘わらず、建学の精神に仏教を掲げる大学で薬学部を開設したのは本学が初めてであり、本学がその嚆矢となることは、医薬の歴史を鑑みても特に意義のあることと考えている。

一方では、現在の医療を取り巻く社会状況には、調剤過誤、患者への対応の問題等、医療担当者の人間的側面が問われるような状況が生じてきている。

また、科学の進歩も目覚しく、ヒトゲノムの解読によって、人それぞれに効く「テーラーメイドの薬剤治療」が可能になりつつある現在、これらの治療が意味あるものとなるためには、最先端の薬学知識を有し、更に患者の状況を正確に聞き出す能力と、患者につくす慈悲の心を併せ持つ医療担当者が望まれるようになっている。

本学薬学部は、このように建学の精神に基づき、現在の医療を取り巻く環境を鑑み設置されたものであり、深い人間理解に立つ最先端の薬学知識を持った人材の輩出を目指している。

平成21年4月に、武蔵野大学大学院薬科学研究科薬科学専攻（博士後期課程）を開設した。

近年、我が国においては急速に高齢化社会が進展し、医療状況の変化や疾病の多様化が進んでいる。国民の健康的な環境を維持するために、特定の専門分野における深い研究および多様な分野における幅広い研究を、自立して遂行することのできる薬学研究者ならびに、高度の専門性を必要とされる臨床現場で活躍するために必要な研究能力と研究意欲を備えた高度実務薬学研究者の養成が強く求められている。

本研究科は、そのような社会の要請に応えるために、「高度薬学研究者養成コース」と「高度実務薬学研究者養成コース」の2つのコースにより、高度な研究能力を持つ研究者の養成を目的に設置され、受け入れる学生は従来の4年制の学部を卒業し修士課程を修了した者とした。

本研究科の特色として、入学後 3 ヶ月間、他の研究現場を経験しながら、自らが立てた研究テーマと研究計画の適正性を検証する機会、または、医療現場で直面している問題を把握し、研究課題を探索する機会を設けて、学生の自発性を高めるための科目：選択課題検証実習科目、あるいは課題探索コースワーク実習科目を設定した。

また、本学では薬学部設置の 1 年前の平成 15 年 4 月に「薬学研究所」を設立し、平成 16 年度には文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の「ハイテク・リサーチ・センター（HRC）整備事業」に採択され、数年の間で高い実績を積み上げてきた。研究所には多くの研究成果が蓄積され、各種企業や医療機関、研究機関と研究・教育のネットワークが構築されている。本薬学研究所では、薬学部専任教員が兼務として所属し研究を行い、薬学部及び新設の大学院薬科学研究科と連携し、研究所の知的財産を活用することで、最先端の研究内容・知識・技術の付与を通じて、質の高い教育を行うことを目指している。